

第 34 号

編集・発行

富山県障害者社会参加推進センター
〒930-0094 富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館(サンシップとやま) 3階
Tel (076) 444-0213 Fax (076) 433-4610
E-mail
fjp25520@nifty.com
ホームページ
<https://www.toyamashin.jp/>

富山県障害者社会参加 推進センターだより

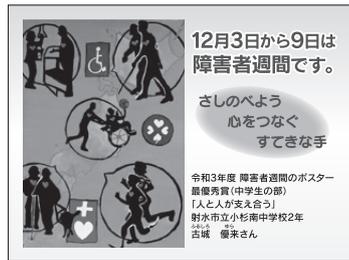
令和3年度障害者週間 キャンペーン実施

推進センターでは、障害者週間の初日12月3日に広く市民の方に理解していただくため、富山駅広場において通勤通学の方に、ポスターの図柄を入れたポケットティッシュと福祉作業所で作った小物で県障害福祉課、健康課の県職員及び加盟団体の協力を得てPRを行いました。

今年は、コロナ感染防止の関係で手渡しを少なくし、自由に持ち帰り方式にしました。



富山駅広場にて



最優秀賞ポスターをデザインした
ポケットティッシュ図柄

ワークショップ障害者陶芸教室開催

7月29日(木)県西部、8月5日(木)県東部の障害者を対象に、射水市匠の里において、総勢42人が参加し、陶芸教室を開催しました。この陶芸教室は、毎年開催しているもので今年も皿や花瓶など一人ひとり個性溢れる作品が出来上がりました。この作品は、毎年開催している地域障害者作品展に展示し多くの方に鑑賞していただいています。



今年は何を作ろうかな？

令和3年度地域障害者作品展開催

令和3年度の地域障害者作品展を県内4箇所(富山市・朝日町・氷見市・小矢部市)において開催しました。

この事業は、障害者施設や障害者団体また社会参加推進センター事業のワークショップの陶芸教室での作品を展示し多くの県民の皆さんに観覧いただきました。



砺波園域(小矢部市民交流プラザにて)

第27回富山県障害者絵画展開催

10月1～3日、第27回富山県障害者絵画展をアピタ富山店で開催しました。

今回は、福祉施設・個人から75点の出展があり多くの方に観覧いただきました。



アピタ富山店にて

※令和3年度コロナ感染拡大により、中止となった事業

- ・ワークショップ障害者ほんわかアート教室
- ・結婚相談事業「出会いと語らいの集い」

令和3年度「心の輪を広げる体験作文」 および「障害者週間のポスター」募集事業

毎年12月3日～9日は「障害者基本法」により「障害者週間」と規定されており、富山県では毎年「心の輪を広げる体験作文」や「障害者週間のポスター」を県民から募集しています。今年度の体験作文の最優秀賞は、中学生の部では、高岡市立戸出中学校3年森岡早耶音さんの「障害は神様からのギフト」、また、高校生の部では、富山県立南砺福野高等学校2年松井彩吹さんの「人助け＝良いこと」が選定されました。松井さんの作品は、令和3年度高校生区分で内閣総理大臣賞佳作に入賞しました。また、ポスターの部において中学生の部で、最優秀賞に「人と人が支え合う」射水市立小杉南中学校2年古城優来さんの作品が選定されました。

体験作文の最優秀作品を紹介します。

「心の輪を広げる体験作文」最優秀賞

「中学生の部」

「障害は神様からのギフト」

高岡市立戸出中学校3年 森岡 早耶音さん

私の祖母はリュウマチを患っています。リュウマチとは、関節がうまく動かなかつたり、骨が曲がってしまったりする病気です。

祖母は、昔は床屋を営んでいましたが、リュウマチにかかつてはさみを持つことができなくなり、理容師を続けることができなくなりました。

リュウマチの症状が進んでいつ箸が持てなくなつたため、食事のときはフォークやスプーンを使うようになりました。また、じゃんけんをするときも、グーやチョキを出すのは難しくしてパーしか出せません。これは手をかちんと握ることができなかつたり指先の細かい動きができないということにつながります。そのため、重い物を運ぶときや細かい作業をするときは私や弟が手伝うことが多いです。

私は小学校に入るまで、祖母が障害者だということを理解していませんでした。私が物心ついたときにはすでに祖母はリュウマチにかかつていたので、私は手足の動きが不自由なのはお年寄りなら当たり前だと思つていたのです。だから、母から祖母の障害について初めて聞いたときは少し驚きましたが、祖母の優しさを知っている私は、祖母は普通のお年寄り「特別」なのだと思います。

小学校五年生の時、私は友達と一緒に祖母の家に遊びに行きました。祖母の手足を見た友達は、

「おばあちゃん障害者なんだ。かわいそう。」と私に言いました。その時、私は友達が祖母に対して言った「かわいそう」という言葉が理

解できず戸惑いました。それと同時になぜかむかついてしまいました。

私は、祖母のことを「かわいそう」だと思つたことが一度もありません。だから、友達の言葉から伝わった、「障害者＝かわいそう」という考えがショックでした。この時私は友達に対して、

「そうだね。」

と苦笑いすることしかできませんでした。

友達が帰った後、私は祖母に、

「おばあちゃんは自分が障害者だからかわいそうだと思つたことがある？」

と聞きました。質問した直後に、なんて失礼なことを聞いたのだろうと思つていると、祖母は笑顔で、

「自分や障害者のことをかわいそうと思つたことはないよ。だって、障害は神様からのギフトだからねえ。」

と言いました。この言葉を聞いたとき、私は泣きそうになりました。祖母を支えてくださる周りの方々と祖母との、お互いを思う優しさを感じたからです。

障害がある祖母は周りの人に支えてもらうことが多いのでしよう。そして、そのことを祖母はきつと心から感謝しているのでしょう。周りの人の温かい気持ちや優しさにたくさん触れられる自分の幸せを感じ、その幸せは障害のおかげ。祖母はそんなふうを受け止めているのかもしれない。障害を前向きに受け

入れて明るく生きている祖母のことがもっと大好きになりました。

しかし、障害を受け入れられなかったり、障害があるというだけで差別をされ、辛い思いや悲しい思いをしたことがあるという方もいらっしやると思います。そんな方々も、笑顔で明るく笑顔で暮らせるような温かい世の中になつてほしいです。そのために、「障害は神様からのギフト」という考え方が世界中に広がるように願います。そんな世の中に近づくために、自分にできる小さなことをしていきたいと思います。

「高校生の部」

「人助けは良いこと」

富山県立南砺福野高等学校二年 松井 彩吹いぶきさん

ある日の、帰り道だった。電車通学の私は、最寄り駅で降りて、家に帰る。帰りは、向かい側のホームに行かなければならないので、階段を登る。普段通り電車を降り、階段を登ろうとしたときだった。荷物を持った七十代くらいのおばあちゃんがいた。おばあちゃんは、とても辛そうな顔をして、階段を一段、二段とゆっくり登っていた。田舎に住んでいる私は、老人が階段を登っている光景には、見慣れていた。困っていたら声をかけるのも普通だった。私は、いつもと変わらず、「大丈夫ですか？何かお手伝いしますよ。」

と、声をかけた。するとおばあさんは、「なん！私できるわ！助けなんかいらん！」

と、私に強く言い放った。まさかそんなことを言われるとも思わず驚いた。ただ、人助けをしたかっただけに。人助けは良いことと思っていた私は、少しショックだった。でも辛そうで、今にも泣きだしそうなおばあちゃんを放っておくことはできなかった。私の中で引かかった言葉は、でも何か助けてあげたいという気持ちに変わった。

「じゃあ、そばにいらさせてください。何もしません。そばで見守らせてください。一人ぼっちより人がいた方が良いじゃないですか。」

そう言うと、渋々うなずいてくれた。ゆっくりと階段を登り踊り場まで行ったときだった。

おばあちゃんは、スッと力が抜けたかのようになり、膝から崩れ落ちた。突然のことに驚き、急いでおばあちゃんを支えた。おばあちゃんは、少しほほえんで静かに話し始めた。

「私、閉塞性動脈硬化症でね。難しい名前やろ。その病気のせいで足が悪くて。よくこういうことが起きるんやちゃ。ごめんね、びっくりしたやろ。」

難しい病名がスラスラと並べられ、おばあちゃんの話についていくのに必死だった。そんなことにかまわず、おばあちゃんは話を続ける。

「まあ簡単に言うたら、下半身の動脈がつまったり、狭くなったりして酸素が十分に行

き渡らん病気がいぜ。そうやさかい、間欠性跛行言う症状出るもんで。」

もう、わけがわからなかった。

「歩くことはできる。でも、痛て痛て。少し休めば歩けるようになるんやけど……。」

そうおばあちゃんは説明してくれた。聞いたことのない病気に症状が脳内をぐるぐると回る。こんなところで話していてもキリがないと思っておばあちゃんに声をかける。

「おばあちゃん。ゆっくりでいいので、あっちのホームに行きましょう。ベンチに座って話しませんか？」

おばあちゃんは、少し元気そうにそうしよかと、言った。ゆっくり一段ずつ、休憩しながら、反対側のホームに渡った。改札をくぐりベンチのある待合室に行き、二人でゆっくりと腰かけた。

「さっきは大きな声出してごめんね。恥ずかしいことやけど、できんこと認めたくなくて。人に助けてもらおうと自分に障害がある言うて、実感してしまうのが怖くて。」

声の大きさがだんだん小さくなっていくのがわかった。そのときやっと気づいた。なぜあるとき大きな声で言われたのが。気づくと同時に悲しくなった。特に障害を持つていくわけでもない。でも、なぜか悲しくなった。気持ちが何となくわかったから。できないことから目を背けたくなる気持ちが。私は、おばあちゃんのシワだらけの手を握った。

「その気持ちわかります。おばあちゃんほど、大きなことじゃないけど。障害があってもなくても気持ちは変わらないんですね。」

おばあちゃんは少し嬉しそうに手を握り返してきた。心がつながった気がした。障害の有無に関係なく、一人の人間として尊重するべきだと思った。

「強く当たってごめんね。あなたみたいな人で良かったわ。本当は嬉しかったのよ。認めたくなかっただけで。あなたみたいな人が増えると良いわね。障害の有無によって辛い思いをする人もたくさんいるから。ありがとう。」

おばあさんは、ゆっくり立ち上がり荷物を持ってタクシーに乗って行ってしまった。最初に見たときは正反対な笑みをうかべていた。心があたたかくなったような、チクリと痛んだような。障害の有無は仕方ないと言ってしまうえば、そこまでだ。でも、接し方や考え方によっては、全く変わらない一人の人間だということを忘れてはいけない。障害にも様々なものがある。未だに、身体障害者は、接することができるけど、知的障害や精神障害の人は怖い、接しにくいと言う人がいる。正直私も少し前まではそう思っていた。でも、接してないだけで同じ人間だし、一日の価値だって、命の価値だって変わらないと思う。

全員じゃなくていい。考え方に違いがでてくるのは当然のことだから。でも少しでも偏見がなくなっしてほしい。みんなが対等に生き

ることができるよう。人助け＝良いことは、間違いではないけど、慎重に考えていかないといけない。私の頭の中は、そのことでもいいだった。

身体障害者のひろば

今年度も、富山県身体障害者福祉協会では、コロナ禍の下計画していた事業について中止や延期が余儀なくされている中であって、外出自粛による会員の体力低下や認知症の発症を予防するため、施設など現地に直接出向いてコロナ感染対策の確認を行い以下の事業を実施しました。

●第48回ボウリング大会開催

9月25日(土)アピタ東店ワンダーボウルにおいて、第48回障害者ボウリング大会を開催しました。



今回は、コロナ感染防止のため県東部と県西部の2班に分けて時間をずらすと共にそれぞれ1レーンを開けて行ない、2ゲームトールの点数で順位を競いました。また、現地での表彰式は密になるため行なわず参加賞のみとし、トロフィーなどは後日お届けさせていただきました。

●女性健康指導教室(テーブルマナー教室)開催

10月14日(木)ANAクラウンプラザホテルにおいて、女性会員を対象に前段に洋食についてのお話とマナーについて詳しい説明後、順番に料理が運ばれその都度ナイフやフォークなどの使い方を学ぶことができました。



●令和3年度山岳歩行訓練会

今年度は、昨年計画していた高山別院照蓮寺の「中村久子展」と新穂高ロープウェイ体験乗車を10月20日(水)～21日(木)の一泊二日において実施しました。

初日の中村久子展示館においては、幼いころ凍傷にかかり両手両足を切断しなければならなくなり、その後障害者として壮絶な人生を送られたとのことで、みなさん感銘を受けてきました。



中村久子展見学



快晴のアルプス連邦

二日は、昨年より念願の新穂高ロープウェイ乗車体験を行ない、天候が気がかりでしたが参加者の祈りが通じ快晴となりすばらしいアルプス連峰を堪能してきました。

●第2回リハビリ教室

11月9日(火)～11日(木)の2泊3日で、氷

見市「ひみのはな」において第2回りハビリ教室を開催しました。

今回は、二日目の午後初めてプラ板キーホルダー作りに挑戦してきました。



出来上りが楽しみ

このプラ板キーホルダは透明プラスチック板に油性マジックでぬり絵を描いて、オーブンで温めて作るもので子ども達にも大変人気があります。高齢者にとっては少し頭と手を使うため大変苦労されていました。

●女性健康指導教室(料理教室)開催

11月18日(木)大沢野ウインディ調理室において、料理教室として今年も「手前味噌作り教室」を開催しました。



講師のお話

味噌作りは、昨年初めて実施したところ大変おもしろいので、今年も是非実施してほしいとの要望もあり、再度実施させていただきました。ところ、昨年は、良く判らなかつたため塩の入れ方などまちまちでしたが、今回2回目となると手慣れたものでスムーズに完成しておられました。

●第34回富山県身体障害者福祉大会(協会)

創立70周年記念大会開催

12月4日(土)富山市大沢野生涯学習センターにおいて、第34回富山県身体障害者福祉

大会を開催しました。

この大会は、協会創立70周年記念大会として実施させていただきました。本来昨年が協会創立70周年記念大会を行なう予定でしたが、コロナ感染拡大のため福祉大会を中止し功労者表彰式のみ実施したため、今年改めて記念大会として開催させていただきました。

当日は、生憎の雨模様でしたが多くのご来賓のご臨席を賜り、会員及び関係者総勢150人の参加を得て無事に終了することができました。

●女性健康指導教室

(フラワーアレンジメント教室)開催

12月24日(金)、サンシップとやまにおいて、コロナ禍の感染対策に配慮しながらフラワーアレンジメント教室を開催しました。

当日は、女性会員30名が参加し、花まつつフラワーアカデミーから3名の講師の指導のもと正月用花飾りとして松や千両、ピンポンマムなどを思い思いにオアシスに生けていました。



才能ありの完成品

※令和3年度も、新型コロナウイルス感染症防止のため、外出自粛や事業の中止などがあり、人と人とのコミュニケーションが少なくなり



福祉大会会場

認知症発症や認知症予備郡になる方が多くなってきたと聞いています。

令和4年度も引き続きコロナの収束が見えない中ですが、協会として感染対策を取りながら引続き各種事業を展開していきますので今後とも皆様のご理解とご参加をお願いいたします。

【お問い合わせ先】

一般社団法人富山県身体障害者福祉協会

富山市安住町5-21サンシップとやま3階

TEL (076) 43216331

FAX (076) 43314610

精神障害者のひろば

精神障害者にも対応した地域包括支援システムの構築を!

令和3年度構築支援事業に参加の都道府県は11指定都市・特別区は、12

数年前

より厚生

労働省は、

「誰もが

安心して

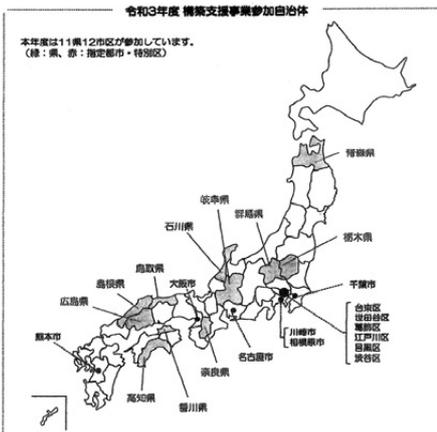
自分らし

く暮らす

事が出来

る地域共

生社会の



実現を目指すとして、「精神障害者にも対応した地域包括支援システムの構築」（通称…にも包括）について推進しています。

しかし、国の重要施策となっていない（国の構築支援事業の予算は、約40億円）ため、全国的な構築体制は一向に進んでいません。

一部取り組んでいる自治体とそうでない自治体の格差は広がっています。富山県と市町村には、一刻も早く「構築支援事業」に取り組みんでいただきたいと思います。

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人

富山県精神保健福祉家族連合会

事務局 〒930-0085

富山市丸の内2-3-8 桜井ビル3F

TEL・FAX (076) 461-7110

知的障害者のひろば

富山県手をつなぐ育成会

◆施設部会全体研修会

「コロナ禍における支援について」

（施設部会は県内の入所施設、通所施設などの保護者会で組織されています。）

令和3年12月3日（金）、各施設長と保護者会役員などによる全体研修会を行いました。

今年度は県内の施設で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、収束までの2カ月間

余の状況は、後日、伝え聞くだけでも壮絶なものがありました。そこで、今回は、『コロナ禍における支援』をテーマとし、クラスターが発生した施設での当時の状況や対応、今後の課題等を中心にお話しを伺い、共有する機会としました。

入所施設でクラスターが発生した場合、現状ではそこが病院、療養の場となってしまう。その中で、自らも感染するリスクや恐怖を感じながらも、防護服一式を身に着け、医療の専門家ではない職員さんが、療養面でも支援していくという状況は大変困難だったそうです。

感染者の療養支援、感染していない利用者の日中、夜間の生活、食事の支援など、職員の皆さんの奮闘ぶりを頭が下がる思いで聞き入りました。

収束までの間、家族への感染回避などの理由から、車中泊を続けた職員さんも多く、施設がホテルを手配、また、総合病院の宿舎を借りたという事例もあつたそうです。

富山県育成会では県に対し、障害のある人が感染した時の医療提供体制や、同居する家族が感染した時に障害のある人を一時受け入れることができる施設の設置、重い障害のある人への対応が可能なショートステイの確保など、支援体制の確立を要望してきました。

このような一時施設があれば、支援職員がいざという時の宿泊場所に利用でき、インフ

ルエンザや他の感染症への対策にも有用であることから、今後も継続して緊急時の支援体制の充実を求めていきたいと思えます。

◆「親から地域へのバトンタッチ」

「松の木プロジェクト」

富山市手をつなぐ育成会が富山市からの委託を受け、県育成会も協力して3年間にわたり進めてきた「親亡き後研究事業」。その成果をまとめた、親向けと本人向けの冊子を使った学習会が各地域の育成会や保護者会などで始まっています。

富山市手をつなぐ育成会では、12月4日（土）に、富山市民生委員児童委員協議会（以後、民生委員）の高齢者障害者福祉部会と共催で研修会を行い、親亡き後の障害者を地域で支える仕組みづくりについて、共に考える機会としました。

100名余りの全参加者に冊子を配布し、概要を説明した後、地域ごとのグループに分かれて意見交換を行い、育成会からの参加者は、障害のある子どもの特性などを交えた自己紹介や、親亡き後の不安、悩みなどをお話しました。

民生委員さんからの発言で多くあつたのが、何か手助けをしたいという思いはあるが、障害のある人がどこにいるのか、どんな心配事があるのか、どう接したらいいのかわからない、「障害のある方の情報がない」ということでした。

一方、親のほうからは、民生委員の活動をあまり知らなかったという声や、どこまで地域に情報を開示できるだろうかと自問自答する声もありました。

研修会後のアンケートでは、このような機会をもっと増やしてほしい、地区や校区など身近な単位でこのような研修会を継続して行ってほしいとの声が双方から多くあり、今後顔面を合わせながら、お互いを「知る」、「理解することから始めていきたい」という意識が芽生えたようです。

【お問い合わせ先】

一般社団法人 富山県手をつなぐ育成会
〒930-0094
富山市安住町5番21号
TEL (076) 441-7161
メール tokusei@minos.ocn.ne.jp
ホームページ <http://toyamaikusei.jp/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/toyamaiikuseikai/>

視覚障害者のひろば

社会福祉法人

富山県視覚障害者協会だより

令和3年度富山県同行援護従業者養成研修開催

一般課程：7月27日・8月11日・8月12日
応用課程：12月28日・1月5日

※会場：サンシップとやま

「同行援護」は、障害者自立支援法第5条第4項で規定されており、視覚障害により移動に大きな困難のある方について、外出時に同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護等を行うサービスです。当協会は、このサービスの従業者を養成する研修を県から委託されています。

研修は現在、「一般課程」が3日間、「応用課程」が2日間にわたり実施されています。同行援護といえ、移動を支援する姿がまず思い浮かびますが、技術を学ぶだけで障害特性に合ったサービスを提供できるわけではありません。裏付けとなる法的・

医学的知識や同行援護に関連する基礎知識を身に付けるとともに、技能面でも基礎から場面別、交通機関の利用等に至るまで幅広く研修することになります。講義や実習そのものが重要な位置を占めることは言うまでもありませんが、受講することで新たな気付きや課題が受講者間で共有されることも大きな産物のようです。なお、例年夏季に実施していますが、本年



度は新型コロナウイルス感染症の影響で応用課程が年末・年始の時期に延期されました。

同行援護の従業者を養成することは、同行援護事業に参入する事業所のサービス向上につながることもあり、今後も本研修を通して視覚障害者の地域における自立と社会参加がさらに促進されることを期待します。

令和4年度前期の

主な事業計画(予定)をお知らせします。

- 5月31日・6月1日 岡山県 第75回全国視覚障害者福祉大会
- 5月(日は未定) 新潟県 第49回北信越グランドソフトボール大会
- 6月12日 (福)富山県視覚障害者協会定期会員総会
- 7月3日 ボランティアと利用者交流会
- 8月21日 第71回点字競技会・第23回パソコン競技会
- 9月10・11日 富山市 視覚障害者と家族激励大会並びに研修会
- 9月25日 第46回視覚障害者文化祭・福祉機器展

以上の事業の他、文化・スポーツ・家庭生活を支援する各種教室、点字・パソコン・歩行指導、点訳・音訳ボランティア養成・研修事業等、視覚障害者の社会参加促進活動を通して実施しています。

【お問い合わせ先】

〒930-0077

富山市磯部町3丁目8番8号

TEL (076) 425-6761

(福)富山県視覚障害者協会事務局まで

聴覚障害者のひろば

●全日本ろうあ連盟70周年記念映画

「咲む(えむ)」上映会が県内2カ所で行われました

全日本ろうあ連盟は映画「咲む」を製作し、令和2年8月より全国での上映活動を展開しています。

今年度、県内では、7月6日(火)に新川地区上映会を朝日町体育文化センターで、9月26日(日)に砺波地区上映会をクロスランドおやべセレナホールで行いました。

新川地区上映会は、朝日町ボランティアグループ「カワセミの会」と共催で3回上映しました。2回目では朝日中学校の生徒さんたちにも観てもらいました。約430名に会場いただきました。また、来場者に簡単な手話を覚えてもらいました。これをきっかけに少しでも手話言語を学ぶ人が増えていって欲しいと思います。

砺波地区上映会は、午前、午後と2回上映。チケット販売の段階でコロナウィル



ス感染拡大のため中止にするべきか、悩みましたが、感染防止対策を講じ来場者が安心して映画鑑賞を楽しめるよう努め実施しました。当日チケットを購入された方も多く、約177名とたくさんの方々に鑑賞していただきました。小矢部市長もお忙しい中駆け付けられ、あいさつを頂きました。

【来場者の感想から】

*ろう者の目覚しい活躍で手話言語に対する理解が広がっている今、ろう者の生活と幸せを守るような社会にして欲しいと思いつつ帰路についた私でした。人々の心を惹きつけるような作品を見せて頂き、ありがとうございました。

*主人公の明るく、前向きな姿に感動しました。また主人公を取り巻く人たちそれぞれ



れの気持ちがかかるような気がしました。共に歩むためにどうしたら良いのか考えさせられました。多くの人に見てもらいたい映画です。

なお、2月、3月に次の通り上映会を予定しています。ぜひあなたも鑑賞してみませんか。音声、字幕付きで誰でも楽しめるバリアフリー映画です。

◎新川地区上映会 2月13日(日)



① 10:30 ② 14:00

会場：滑川市立早月中学校ふれあいホール

◎高岡地区上映会 3月13日(日) 14:30

会場：高岡市ふれあい福祉センター多目的ホール
チケット…

いずれも大人(高校生以上)

小中学生

1,200円

500円

●手話学習を企画したい団体の方へ

手話普及活動促進事業をご利用ください。

県内の企業、社会福祉法人や社団法人、NPO法人、自治会、PTAなどの団体からの依頼に応じ、ろう者と交流し手話を学んで頂くための「出前手話講座」を実施します。申込みのための主な条件、申込方法は、本協会のホームページをご覧ください。

●難聴の方へ

要約筆記者派遣事業をご利用ください。

難聴、中途失聴者の方は、要約筆記者派遣事業が利用できます。身体障害者手帳があれば、無料で派遣できます。問合せ、依頼は本協会まで。ぜひご利用下さい。

【お問い合わせ先】

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

富山市木場町2-21

TEL (076) 441-7331

FAX (076) 441-7305

メール info@tomichokyo.or.jp

ホームページ

<http://www.tomichokyo.or.jp/index.html>